

地域の一員としての自覚をもち、自ら地域に働き掛ける子どもたちの育成
— オアシス通学団会（小・中合同）を活用した取組 —

西尾市立西尾中学校

＜連携校：西尾小学校，花ノ木小学校＞

1 実践のねらい

- (1) 同じ地域に住む小・中学生が合同でオアシス通学団会を開催することにより、小・中学生が同じ地域に住む一員としての自覚をもつことができ、また、異世代の方（町内会長さん）の考えを知ることにより、「これから自分たちが地域にできることは何か」を自ら考える子どもたちを育てる。
- (2) 「いざという時」の防災意識を通学団単位で捉え、地域の防災訓練などにオアシス通学団会として参加したり、地域の祭礼などにも進んで参加したりする子どもたちを育てる。
- (3) 地域清掃活動、資源回収、ボランティア活動など、地域の方と共に活動を続けていくことにより、子どもたち一人一人に社会に参画する意識を養い、地域を愛する心を育む。

2 実践の内容

(1) オアシス通学団会

12月17日（木）に小・中学校合同のオアシス通学団会を実施した。本校には、五つの小学校から子どもたちが通学しており、今年度はその中で西尾小と花ノ木小が連携校となっている。当日は、この2校とオアシス通学団会を行った。

当日までに、各通学団長が各町内会長さんのお宅を訪問し、自己紹介により顔を覚えていただき、町内会長さんの立場からの小・中学生への要望をうかがった。「積極的に地域の祭礼などに参加してほしい」「地域でも元気な挨拶ができるといい」など、貴重な意見を多くいただいた。

当日は、通学団ごとに団長、中1・2年生の代表の3名が出席し、合わせて213名の生徒が各小学校で行われるオアシス通学団会に参加した。各小学校には代表町内会長さんに参加いただき、様子を参観していただいた。オアシス通学団会では、自己紹介をした後、「これからのオアシス通学団会の方向性」と「町内会長さんからうかがってきた話」について話合いや情報交換を行った。小・中学生が顔見知りになり、地域の一員としての自覚をもつ良い機会となった。

(2) 地域との交流

ア 地域の防災訓練への参加

住崎町では、地域の大人と中学生がグループを作り、西尾市が進めている「黄色いタオル大作戦」を実行した。これは「いざという時」に各家庭に配ってある黄色いタオルを「大丈夫である」というあかしに、玄関先に巻き付けて安否確認をするものである。当日は、黄色いタオルが掛かっていない家庭を訪問し、安否確認をする作業を中学生が手伝った。最初は、



【オアシス通学団会を参観する代表町内会長さん】



【オアシス通学団会での様子】

互いに知らない中、どう動けば良いかを探り合っている様子であったが、時間とともに打ち解けていった。互いにとって知り合う良い機会となったとともに、何かあったとき、町で会ったときなど声を掛けられる存在になったのではないかと思う。最後には、全員が公民館に集まって炊きだし訓練を行い、中学生もそれを手伝った。

イ 地域の祭礼やボランティア活動への参加

西尾中学校は西尾市の中心に位置し、西尾市が主催する祇園祭りが校区内で行われている。各町内の行列には、小・中学生が例年以上に積極的に関わった。なぎなた隊や獅子舞に中学生が参加したり、子どもみこしや手踊りに小学生が参加したりし、祭りを盛り上げた

また、校区内を流れるみどり川や矢作古川などを清掃する活動が毎年行われているが、本年度は、例年以上にたくさんの中学生在が参加した。

(3) 連携小学校との交流

ア 小学校PTA行事や小学校運動会への参加

小学校PTAからの依頼で、バザーなどの手伝いに多くの中学生が参加した。出し物の一つとして、西尾中生徒会で行った防災大作戦のときに、委員会で実施した新聞紙によるスリッパ作りを披露した。

また、小学校の運動会では部活動ごとにボランティアとして参加し、大道具係などを手伝った。校区内の保育園の運動会にも参加し、背の高い中学生が玉入れの棒を持って、かわいい園児たちが玉入れをするというようなほほえましい光景が見られた。

イ 小学校授業研究会にゲストティーチャー参加

花ノ木小学校で行われた英語の研究授業に中学1年生10名が参加した。小学生が英語で中学生に話し掛け、中学生が英語で答えるというゲストティーチャーの役割である。小学生にとって、英語のできる中学生と話す機会というのは、ALTに話す前段階として、とても貴重な体験であった。

3 実践の成果や課題

- ・ オアシス通学団会を開催し、小学生と中学生が顔見知りになることができ、同じ地域に住む一員としての自覚をもつことができるようになってきた。また、町内会長さんの考えを知ることにより、「これから自分たちが地域にできることは何か」を自ら考えることができるようになってきた。
- ・ 地域の防災訓練に参加することにより、中学生は地域を守る力となることが共通認識され、今まで以上に防災意識をもつことができるようになってきた。また、地域の祭礼や清掃活動にも進んで参加する子どもたちが増えてきた。
- ・ 連携小学校や校区内保育園などとの関わりや地域でのボランティア活動など、地域の方と共に活動を続けていくことにより、子どもたち一人一人に社会に参画する意識が養われ、地域を愛する心を育むことができた。



【住崎町自主防災訓練での様子】



【小学校PTA行事での様子】



【小学校英語授業への中学生参加】